

インド地震被災者

リハビリ施設 設置で支援へ

AMDAの医師帰国報告

大規模地震に見舞われた
インド西部の被災者救援の
ため現地を訪れていたアジ
ア医師連絡協議会（AMDA）
A）本部岡山市の三宅
和久医師（三）が帰国し、十
九日、本部で被災状況につ
いて報告した。三宅医師に

よれば、心配されていた伝
染病は見られないが、骨折
などの重傷患者は多く、A
MDAとしてリハビリテー
ション施設の設置などの医
療支援に取り組むことを明
らかにした。

三宅医師は今日七日、現
地入り。インドの医師とと
もにボンベイ東部のソラプ
ールを拠点に被害の大きい
村々を巡回した。

現地ではすでに赤十字の
ほか、インド国内の民間団
体が被災者への医療を含む
救援活動を展開。食料や住
居を確保するための資金や
物資は不足しているが、コ

レラなどの感染はないとい
う。

しかし家屋の倒壊などで
多くの住民が骨折や手足切
断など重傷を負った。AM
DAは被災地のマハラシュ
トラ州などの要請を受け、
近くソラプールに施設を建
てて重傷患者のリハビリ指
導▽被災者の多い村への移
動診療▽一般診療の三点
から今後一、二年間をめぐ
に救援活動を展開する計
画。三宅医師をプロジェクト
リーダーに、現地の医師
のほか、日本からも状況に
応じ、整形外科医や理学療
法士を派遣する予定。